

問1 古墳時代の大和政権において、朝鮮半島や中国から渡来した人々（渡来人）が果たした役割や、彼らがもたらした文化的な影響について述べた文として正しいものはどれですか。（2024年 群馬公立入試 類似）

- 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた
- 稲作を初めて日本に伝え、各地に高床倉庫を持つ集落を形成させた
- 銅鐸や銅剣などの青銅器を用いた祭祀を広め、巨大な前方後円墳を築いた
- 狩猟や採集に代わる新しい生活様式として、磨製石器の製作技術を広めた

問2 埼玉県にある稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた金錯銘鉄剣が出土した一方で、熊本県にある江田船山古墳からも同様に大王の名が記された鉄刀が見つかっています。これらの発見から推測される、5世紀後半における大和政権の状況として最も適切なものはどれですか。（2017年 大阪公立入試 類似）

- 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。
- 大和政権の本拠地が、近畿地方から関東地方へ移転した。
- 九州地方と関東地方の豪族が連合して、大和政権に対抗していた。
- 朝鮮半島から伝わった鉄器の製造技術が、関東地方でのみ独占されていた。

問3 古墳時代の文化において、古墳の頂上や周囲を囲むように並べられた、円筒の形や人間、家などの形を模した土製の焼き物を何といいますか。（2024年 三重公立入試 類似）

- 埴輪
- 土偶
- 銅鐸
- 須恵器

問4 埼玉県の稲荷山古墳から「大王」という称号が刻まれた鉄剣が出土した事実は、当時のヤマト政権の支配状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。（2016年 高知公立入試 類似）

- 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと
- 関東地方の豪族が、中国の皇帝から日本全体の支配権を認められていたこと
- 律令に基づいた中央集権国家が完成し、全国に役人が派遣されていたこと
- 仏教の布教活動を通じて、全国の豪族が精神的に統一されていたこと

問5 大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」に代表される、5世紀ごろに築かれた巨大な前方後円墳についての説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）

- 大和政権の最高権力者である大王（おおきみ）の強大な権力を示すものである
- 鎌倉幕府の将軍が自らの権威を示すために仏教の教えに基づいて建立したものである
- 律令国家の成立後に、地方を治めるために任命された国司の墓として造られたものである
- 北条氏が執権としての地位を確立するために、各地の武士に命じて造らせたものである

問6 5世紀ごろ、現在の大阪府や奈良県を中心とした勢力であるヤマト王権が、九州から関東地方に至る広い範囲に影響力を及ぼしていたことが、各地の出土品から判明しています。埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト王権の首長を指すどのような称号が刻まれていましたか。（2015年 岡山公立入試 類似）

- 大王
- 執権
- 天皇
- 将軍

問7 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌（きんぞうがん）によってある人物の名前が刻まれていました。この鉄剣に記されていた大王の名として正しいものを選びなさい。（2024年 大阪公立入試 類似）

- ワカタケル大王
- 卑弥呼
- 聖徳太子
- 中大兄皇子

問8 古墳時代の日本列島では、海外から高度な技術や文化を持つ人々が移り住み、社会の発展に大きな影響を与えました。高温で焼く硬い灰色の土器である「須恵器」の技術を日本に伝えた、朝鮮半島などから移住してきた人々を何と呼びますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

- 防人
- 渡来人
- 遣隋使
- 地頭

問9 5世紀、ヤマト王権の首長たちは「倭の五王」として中国の南朝へ使者を派遣し、朝貢を行いました。この外交活動の主な目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 山口公立入試 類似）

- 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため
- 隋に対して対等な立場での外交を求め、中国の進んだ律令制度をいち早く導入するため
- 邪馬台国の卑弥呼が魏から受けた称号と同様の権威を背景に、九州地方の豪族を支配するため
- 仏教の公伝をきっかけとして、大陸の進んだ建築技術や工芸品を組織的に輸入するため

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた	朝鮮半島や中国から日本に移り住んだ渡来人は、当時の先進的な知識を持っていたため、大和政権において外交文書の作成や財政の記録・管理といった重要な実務を担いました。彼らを通じて、6世紀の百済からの仏教伝来に代表されるような、大陸の新しい学問、宗教、技術が日本に定着し、国家の仕組みが整えられていきました。
問2	<b>答え 1</b> 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。	関東（埼玉県・稲荷山古墳）と九州（熊本県・江田船山古墳）という遠く離れた地域の双方から、大和政権の王であるワカタケル大王の名を記した遺物が見つかったことは、当時の政権の政治的影響力が日本列島の広範な地域に及んでいたことを証明する重要な歴史的事実です。
問3	<b>答え 1</b> 埴輪	古墳の周囲や墳丘の上に立て並べられた焼き物を埴輪と呼びます。縄文時代に魔除けや豊かな収穫を祈って作られた「土偶」と混同されやすいですが、埴輪は古墳時代特有のものです。初期は円筒形が中心でしたが、次第に家、盾、人物、動物などの形をしたものが作られるようになりました。
問4	<b>答え 1</b> 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと	埼玉県の稲荷山古墳から「大王」の名が記された鉄剣が見つかったことや、熊本県の江翁山古墳からも同様の銘文を持つ鉄刀が見つかっていることは、ヤマト政権の政治的な影響力が九州から関東までの広い範囲に及んでいたことを証明する重要な資料となっています。これは、各地の有力な豪族がヤマト政権の支配下に組み込まれていった過程を物語っています。
問5	<b>答え 1</b> 大和政権の最高権力者である大王（おおきみ）の強大な権力を示すものである	「百舌鳥・古市古墳群」に含まれる大山古墳（伝仁徳天皇陵）のような巨大な古墳の造営には、膨大な数の労働者と高度な土木技術、そしてそれらを統制する強力な組織力が必要でした。これは大和政権の最高権力者である「大王」が、広範囲にわたる豪族や民衆を支配下に置いていたことを証明する歴史的背景を持っています。
問6	<b>答え 1</b> 大王	5世紀後半のヤマト王権（大和朝廷）の首長は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀には、「ワカタケル大王」などの銘文が刻まれており、近畿地方を中心とするヤマト王権の支配が、既に関東から九州まで及んでいたことを示す重要な歴史的証拠となっています。
問7	<b>答え 1</b> ワカタケル大王	埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、115文字の漢字が刻まれており、その中に「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」という名が見られます。この大王は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、『日本書紀』に登場する雄略天皇にあたると考えられています。
問8	<b>答え 2</b> 渡来人	朝鮮半島や大陸から日本列島へ移り住んだ渡来人は、須恵器の製作技術のほか、鉄器の加工、養蚕、織物、漢字や儒教といった高度な技術や文化を伝えました。これらの技術はヤマト政権の勢力拡大や、当時の有力豪族の経済力の向上に大きく貢献しました。
問9	<b>答え 1</b> 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めようため	5世紀のヤマト王権にとって、武器や農具の材料となる鉄資源の確保は極めて重要でした。そのため、鉄の供給源である朝鮮半島南部での軍事的な影響力を強化することや、中国の皇帝から称号を授かることで、国内の有力な豪族たちに対して自らの王権の正当性を示すことが、この外交活動の大きな目的となっていました。